

こどもの救急 〈生後6か月くらいまでのお子さん〉

夜間や診療時間外に体調が悪くなった時の対応のヒントを紹介します。

生まれて間もないお子さんの症状は分かりにくいことも多く、特に注意が必要です。下記を参考に病院や救急でんわ相談に問い合わせましょう。

発熱

お母さんから移行した抗体や母乳栄養によって守られているため、一般的に感染症にかかりにくい時期です。発熱の原因は軽症の風邪のこともあります。3か月未満の場合は速やかに受診しましょう。3か月から6か月の場合は元気があり水分が取れるようなら、診療時間を待ちましょう。

不機嫌

元気がない時、哺乳量が少ない時、いつもと違って何となくおかしいと感じる時はご連絡ください。

咳・鼻水

元気があって哺乳量が保たれていれば診療時間まで待ちましょう。咳き込んで嘔吐することを繰り返したり、ゼイゼイして眠れない時は受診をお勧めします。

嘔吐・下痢

周囲に胃腸炎の流行があれば感染性胃腸炎が疑わしいですが、他にも嘔吐の原因となる病気はたくさんあります。おなかが張っている、おなかを痛そうにして何回も泣く、嘔吐を繰り返す、元気がない、などの場合は受診をお勧めします。また、嘔吐の内容物が緑色や黒色の場合も速やかに受診しましょう。

けいれん

お子さんによく見られる熱性けいれんは概ね6か月以降に起こります。それより小さい月齢でけいれんした場合は速やかに受診しましょう。けいれんをみると驚いて焦ってしまうものですが、落ち着いて、お子さんの状態をよく観察しましょう。嘔吐があるときは横向きに寝かせます。けいれんの持続時間を計り、お子さんの状態を見ながら救急隊や病院への電話連絡をしましょう。

最後に 小さいお子さんの診察には生まれた時の情報も大切です。ぜひ母子手帳をご持参ください。